

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社フロンティアキッズ
施設名	さつき保育園
報告者（役職）	原田 二三男（園長）
住所・連絡先	埼玉県さいたま市南区沼影 2-9-8
	☎ 048-838-7774
	E-mail musashi@f-kids.co.jp

○タイトル（保育計画）

雨が降ったら「さつき公園」 ～室内公園～

○主な助成備品

運動マット、平均台、跳び箱、鉄棒、ジョイントブロック、トンネル、パラバルーン他

1. 保育計画策定の目的

当園は当初は周辺にマンションが立ち並ぶ駅前に位置し、アスファルトの園庭の認可外保育園としてスタートしました。その後、さいたま市認定ナーサリールームの承認を受けたその年に、駅前の3 2階建て高層マンションの建設に伴い、1 0坪程の小さい園庭のある古い倉庫を改装した現在の場所に移りました。マンション完成後は1階にナーサリールームとして戻る予定でしたが、でき上がったマンションだけでも1歳児が1 0 0人以上いる待機児童が非常に多い地域であることから、駅の近隣では既定の広さの園庭がなくても認可園として認められるようになったため、園庭のない新園を開園し、当園は認可園に入ることができない子どもたちの受け皿としての役割を果たすべく園を継続してきました。

元々が仮住まいの予定であったため、老朽化が進み、園舎の建て替えが必要になったのを機に今年度認可園へ移行しました。新園舎は2階建てにし園庭を作る計画でしたが、待機児童解消のため、園庭を無くし定員を増やす形になりました。

新しい園舎の前の園庭でのかけっこや遊具で遊ぶ子どもたちの姿を見ることはできなくなりましたが、助成していただいた室内で使える運動器具や遊具を使い、新園舎の異年齢保育を進めるための仕切りのない広い部屋で、たくさん体を動かし、運動のできる環境を作りたいと思い保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

0歳児

柔らかいマットが乳児に安心感を与え興味を持たせて、ハイハイしたり、マットを上ったり下ったりと自分の体を動かす楽しさを味わいました。心身の発達が未熟であることから、安全な環境で保育者が「こっちだよ!」「上手だね!」などの適切な声かけを行うことで冒険心を育み、平均台を渡り歩くことで全身を上手に使い、バランスの取り方を身につけました。



1歳児

運動面での体幹を中心とした成長が大切な時期であり、山谷をつけたマットを上る、下りる、跳ぶなどして室内において体幹とバランス感覚を培いました。段差のあるジョイントブロックは自分の力だけではまだできないことが多いので、保育者が手をつなぐ、体を支えるなどの補助をしました。できた時は「上れたね!」「上手だね!」などと一緒に喜ぶことで子どもが達成感を味わえるようにしました。



2歳児

跳び箱、トランポリン、トンネルを組み合わせて作った自分の力で難しい障害物を上り下りしたり、跳んだり、また鉄棒を使って簡単なルールのある遊びを取り入れることで、体の使い方、バランスの取り方を学びました。子どもによっては危険を察知できない子もいるので、自分の力で行動することを促しながら必要に応じて補助をしました。



3歳児

体の各部位を自分の意志で自由に動かせるようになってきているので、その動きを目的の達成のために統合することを身につけるため、トランポリンや鉄棒に技やルールを取り入れました。集団で目的をもった運動や、ルールを守り楽しみながら参加できる遊びとしてパラバルーンに挑戦、協同して活動する喜びを味わいました。



4・5歳児

目的を持った協同活動ができるようになり、走る、跳ぶ、投げる、蹴るなどの身体能力が更に発達する時期でもあり、平均台を使い2チームに分かれてじゃんけんで場所を取り合うゲームや鉄棒の技を競い合う競技を積極的に行うことで体を運動させて使う能力を養いました。又、パラバルーンを運動会で披露し集団で達成することの楽しさや喜びを味わいました。チームに分かれて競技を行う際は「勝つ!」「点を取る!」などの目的意識をしっかりと持てるようチーム単位で励ましました。



3. その成果と評価

園庭のない新園舎2年目の当園にとって、室内で使える運動器具、遊具が揃い、子どもたちの遊びの幅が広がり充実しました。雨の日は計画に挙げたように遊具を組み合わせたアスレチックを作り公園のように楽しんでいます。幼児クラスは鉄棒やトランポリンで遊ぶことで体力の向上に加えて、平衡感覚や体幹も鍛えられています。乳児クラスは室内で体を動かして遊ぶ機会が増え、体の動きも大きくなり、遊ぶ範囲も広がりました。

今回助成していただいた遊具は今まで園になかった新しい遊具ばかり、遊具が増えたことで職員が想定していた遊びだけでなく、組み合わせてみたり、思いもしなかった使い方をしたり、子どもたちの遊びは広がってきています。

4. 今後の課題と展望

それぞれの遊具で遊ぶ機会が増え、繰り返し使うことで遊び方を習得してきましたが、慣れてきたことで遊びが単調になり、興味が薄れがちなところも見られ始めたので、これまで以上に組み合わせや使い方を工夫し、子どもたちの発想を取り入れ、たくさん体を動かし、運動のできる環境を作ることにより体力向上を目指したいと思います。

そして体の成長だけでなく子どもたちの心の成長に寄与する遊びにかかわる遊具としても、今回助成して頂いた遊具を活用していきたいと思います。

以上